

### 3 国立視力障害センター利用者の学習状況とサクセスモデル

国立塩原視力障害センター 小林好彦

国立身体障害者リハビリテーションセンター

岩谷 力、河村 宏、北村弥生、杉江勝憲、加藤博志、館田美保

国立函館視力障害センター 安田晴幸

国立神戸視力障害センター 伊達徳昭

国立福岡視力障害センター 池田和久

#### 1. はじめに

平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金(感覚器障害「マルチメディアを活用した視覚障害者用教育訓練支援システムの研究開発」)を受けて、国立身体障害者リハビリテーションセンター理療教育部及び、国立函館、塩原、神戸、福岡視力障害センター理療教育課程に在籍する利用者 328 人の協力を得て「学習状況調査」と「サクセスモデル調査」を実施した。その結果、学習に使用する視覚障害を補償する機器の使用状況はセンターにより差異があること、聴覚にも障害を有する利用者があること、サクセスモデルは教材などを読む技術、ノートなどの記録をとる技術、記録したものを活用できる技術を一貫して獲得していることなどが明らかになった。

#### 2. 学習状況調査の概要

学習状況調査は 11 項目について実施した。まず、教科書や教材を読む時に用いる機器(補助具)について使用状況をいくつか紹介する。カセットテープレコーダーは、最も使用率の高い塩原 64%と最も使用率の低い函館 29%との間には 35%の差があった。MD(ミニディスク)は、神戸 34%と塩原 1%との間には 33%の差があった。PCは、塩原 46%と神戸 20%の間には 26%の差があった。このような使用率の差は各センターの支援に対する取組み状況に起因するところが多い。国立塩原視力障害センターでは、教材を配布する場合、点字、拡大文字の他に電子ファイル、DAISY、カセットテープのいずれかで行っている。MDで配布している教官は皆無である。

また、調査対象者の約 16%が聞こえにくいと解答している。このうち 10%は聴覚障害の認定を受けている。

#### 3. サクセスモデル調査の概要

サクセスモデル調査は、個別に学習方法を聴取する形式で実施した。サクセスモデルとは、学習意欲がある中途失明者で、視覚を代行する支援技術や機器を組合せて学習成果をあげている利用者である(同様の環境にある学生なども含む)。

本モデルに共通する点は、教材などを読む技術、ノートなどの記録をとる技術、記録したものを活用できる技術を一貫して獲得していることであった。

#### 4. おわりに

理療教育課程で学習する利用者の機器の使用状況はセンターの取組む姿勢により異なった傾向が見られる。これは施設が取組む姿勢を代えれば利用者の使用状況を変えることができることを示唆している。サクセスモデル分析に基づいて現在研究を進めているマルチメディア技術や既存の支援技術を組合せて一貫した読み、書き技術を備えた到達モデルを設定し、必要な支援プログラムを設計し提案していきたい。